

2011年(平成23年)3月20日 日曜日 第2

毛布や食料 県が輸送開始

福島、宮城へ第1陣

真心と共に被災地へ。県は19日、市民が各市町村などに持ち寄った救援物資の輸送を始めた。災害時の輸送協定を結ぶ県トラック協会が協力。第1陣は

県トラック協会の幹部から激励を受ける運転手ら＝岡山市中区倉富、トラックターミナル



毛布や食料、おむつなどの物資に自治体備蓄分を合わせて積載し、

この日午後1時ごろ、トラックターミナル(岡山市中区倉富)

福島、宮城両県へ出発した。

震災後、市町村や県に持ち寄られた救援物資は県民局などで管理。県庁でもボランティアアらが仕分け作業に当たっている。

では、「救援物資輸送車」の横断幕を掲げた11台のトラック4台を前に、県トラック協会の中明夫専務理事が「安全第一に被災者の元に送り届けてほしい」と激励。福島向けは紙おむつ約2万枚と簡易トイレ約700個、宮城へは毛布約7千枚と、水で戻すだけで食べられる「アルファ米」約4700食分などを載せた。

宮城県に運搬する大橋彰さん(46)＝真庭市三崎＝は「大勢の岡山

県民の善意が詰まった物資。思いと一緒に届けたい」と話した。20日午前に両県の配送拠点に到着する予定。県は今後も現地ニーズに合わせて送る。

19日は国からの手配を受けて、県が備蓄していたテントや簡易トイレも発送。おかやまコープ(岡山市)と国際医療ボランティアAMD A(同)なども非常食や医薬品、粉ミルクなどを陸路で輸送した。(内田光祐)